「まちなみ散歩」を振り返って

戸田　恭司*

1991（平成３）年から歴史探訪会「まちなみ散歩」という普及事業を担当・実施しています。きっかけは、この博物館に異動してきて、先輩学芸員の方々がそれぞれ担当される分野ごとに観察会や講座といった事業を実施しており、当時の学芸トップから自分も事業に取り組むよう指示を受けたことです。

さて、「歴史担当」という業務分担の中でどんなことができるか。皆さんが野鳥・魚類・地質・植物を対象としていた中で、自分の対象は「まちなか」にあると考え、「まち」の歴史を見ていくことにしました。第１回目の事業の開催起案には「釧路の歴史を物語る場所を実際に訪れて釧路の歩みを知るとともに、市民に歴史というものをより身近に感じてもらうことを目的とする」という趣旨が記されています。

最初の探訪会は、現在のまちなみが明治初期からつくられ始めた市内米町（よねまち）周辺を散策コースに設定。米町公園を振り出しに、厳島神社・武富私道・しゃも寅の井戸・釧路聖パウロ教会・佐野碑園を巡って米町公園に戻りました。事前申込制としたところ、16名の参加があり、参加者名簿を見返すと、博物館友の会会員をはじめ（現会員の方もおります）、懐かしい方々のお名前がありました。

写真１．三吉神社にて（2013年）

当日は、巡る場所に関することがらをメモ程度に記した配布資料を手にして、現地を訪れていたようです。一応、散策コースを示したマップも添えているのですが、いま見るとほとんど役に立たないというような不親切なものでした。２回目は引き続き米町界隈を散策。石川啄木の歌碑と寺社巡りでした。３回目は士族移住者によって切り開かれていった鳥取地区の歴史を探るために、鳥取神社境内にある鳥取百年館の見学と、境内にある記念碑を見ていきました。ほぼ散策しなくても目的は果たせると考えて真冬の２月に実施し、この３回のうち最も多い27名の参加者がありました。

以後、年に２回ほど実施してきましたが、米町は最も数多く散策コースに選んでいます。このコース内には記念碑など、散策するに当たって参加者が見つけやすく、内容もわかりやすいものが多いということで、探訪会の入門編には最適でした。

このように手探りでスタートした「まちなみ散歩」でしたが、新たに散策コースを考える上で、歴史を語れるものがあまりない、または散在している場合はどうやって進めていくか思案しました。そこで古い市街図を使うことに思い至りました。今のまちなみに当時のまちなみを重ねてみて、頭の中に再現してみようという試みでした。これは思わぬ展開につながりました。

古い市街図を見た参加者から「この店屋さんは…」「近所にこんな人がいてね…」と、当時のようすを語り出していただけたのです。この方にとっては懐かしい思い出とともに、当時がよみがえってきたのでしょう。参加者に語っていただく。まさに「目からうろこ」の瞬間でした。

写真２．大日本職業別明細図（部分）

以後、散策には必須なアイテムとして市街図を添えることとし、コースによっては時代の異なる２種類の市街図を使うこともありました。ここで活用したのが「大日本職業別明細図」（1932年発行）です。この市街図の特徴は、表が地図、裏は公的施設を含めてまちの主要な施設のほか、業種別に商店が掲載されています。どうやら、掲載のある商店が表の市街図に反映されているようでした。また、市街図上では隣り合っている商店の間に、実際は別な商店があったことが参加者からの話でわかったこともありましたので、そのような性格を持っている図であることも皆さんに伝えて進めました。

やがて回を重ねるごとに、散策コースにテーマを掲げるようになっていきました。先に紹介しました米町周辺は「ま

＊釧路市立博物館

ちなみ発祥の地」、南大通・北大通は「まちの中心街の今昔」、ほかには鉄道・戦争（戦跡）・移住者の歴史などのテーマを扱い、単独あるいは複数のテーマを組み合わせて新たなコースを設けたりしながら、コースの充実に努めました。

事業を進める上で配慮したことは、自分の話が単なる観光ガイドにならないこと、参加者の皆さん自らがさまざまなものを見つけていくこと、そしてできる限り皆さんからお話を伺い共有すること、その上で事故なく散策が終了することを目指しました。中でも皆さんからお話を伺うことは、実際簡単ではありませんでした。こちらとしては、探訪会を進める上で適度にお話いただけるのが一番なのですが、そのためには頃合いを見計らって話を振ったり話題を変えたりすることも必要でした。また、話された内容に誤りあった場合は正確な情報を共有できるように、そして参加者からの質問には自分が持つ情報を総動員して対応するようにと努めましたが、いずれにしても自分の力量が問われました。

いま振り返ってみますと、まちなかをぶらぶら歩きながらまちの歴史を見つけていくという、担当者の性格がそのまま表れていたようなゆる～い事業だったと思います。まちなかにあるちょっとしたもの、普段から見ているものの中からもまちの歴史を知ることができますよ、ということを参加者の皆さんに伝えられたらとの思いで続けてきました。開催趣旨にあった「歴史をより身近に感じてもらう」ことができたかどうか…。一つ言えることは、参加された方々の間で互いにご自分の体験を語り合ったり、若い世代の方が年配の方に当時のことを尋ねて話に聞き入ったりして、この探訪会が皆さんの交流の場ともなっていたことです。終わりの挨拶の際に、満足感が皆さんから伝わってくるとひと安心しました。

写真３．デザインブロック「啄木来釧」

担当者として、事業を企画しながら自分自身が地域を学ぶ大きな機会となったこと、さらに参加者の方々から地域の情報を収集させていただいたこと、そして皆さんと楽しく交流できたことと、一番多くのものを得たのは自分だったような気がします。

探訪会を通して、しだいに姿を変えていくまちのようすを見てきました。中心街では空地や空き店舗が増える一方、新たな建物も生まれて来ています。そのようすを見続け、そして語り続けていく。自分にとっての「まちなみ散歩」はまだまだ続いていきそうです。

夏休みこども自由研究応援隊 in イオンモール釧路昭和・イオン釧路店を実施しました

釧路市は、イオン北海道㈱と地域連携協定を結んでおり、様々な事業を行っております。その中で、博物館では今年の夏に初めて連携事業を行いました。題して「夏休みこども自由研究応援隊」です。夏休み期間中に、自由研究に悩んでいる、もしくは何を取り組んだら良いか分からないという子どもたちの応援をしよう、というイベントです。イオンモール釧路昭和並びにイオン釧路店にて自由研究の題材になるようなパネル展、また釧路昭和店では体験講座イベントも実施しました。

イベントは２日間、初日は「小さな植物標本作り」、２日目は「鱗粉転写標本（リアル虫カード）」を行い、同時に自由研究の相談も受け付けました。子どもたちは、かわいい植物標本やきれいな蝶の標本をつくろうと、作業に夢中になっていました。イベント中に、自由研究の相談を受けることもあり、一つのきっかけになったように思います。イベントに参加された方の中には、標茶や中標津などの遠方からやってきた方もいました。こういった行事を通して、様々な地域で博物館を知って頂けるよう、今後もイオン北海道との連携事業を展開していきたいと思います。

（貞國　利夫）

写真１．リアル虫カード作りの作業の様子